

---

## 絵画専攻

日本画領域

油画領域

版画領域

---

### Painting Course

Japanese Painting

Oil Painting

Graphic Arts

---

# 小井 風花

Ol, Fuka

## 絵画制作における精神的瘢痕と常闇の心

Mental Scars and the Heart of the Darkness in Painting



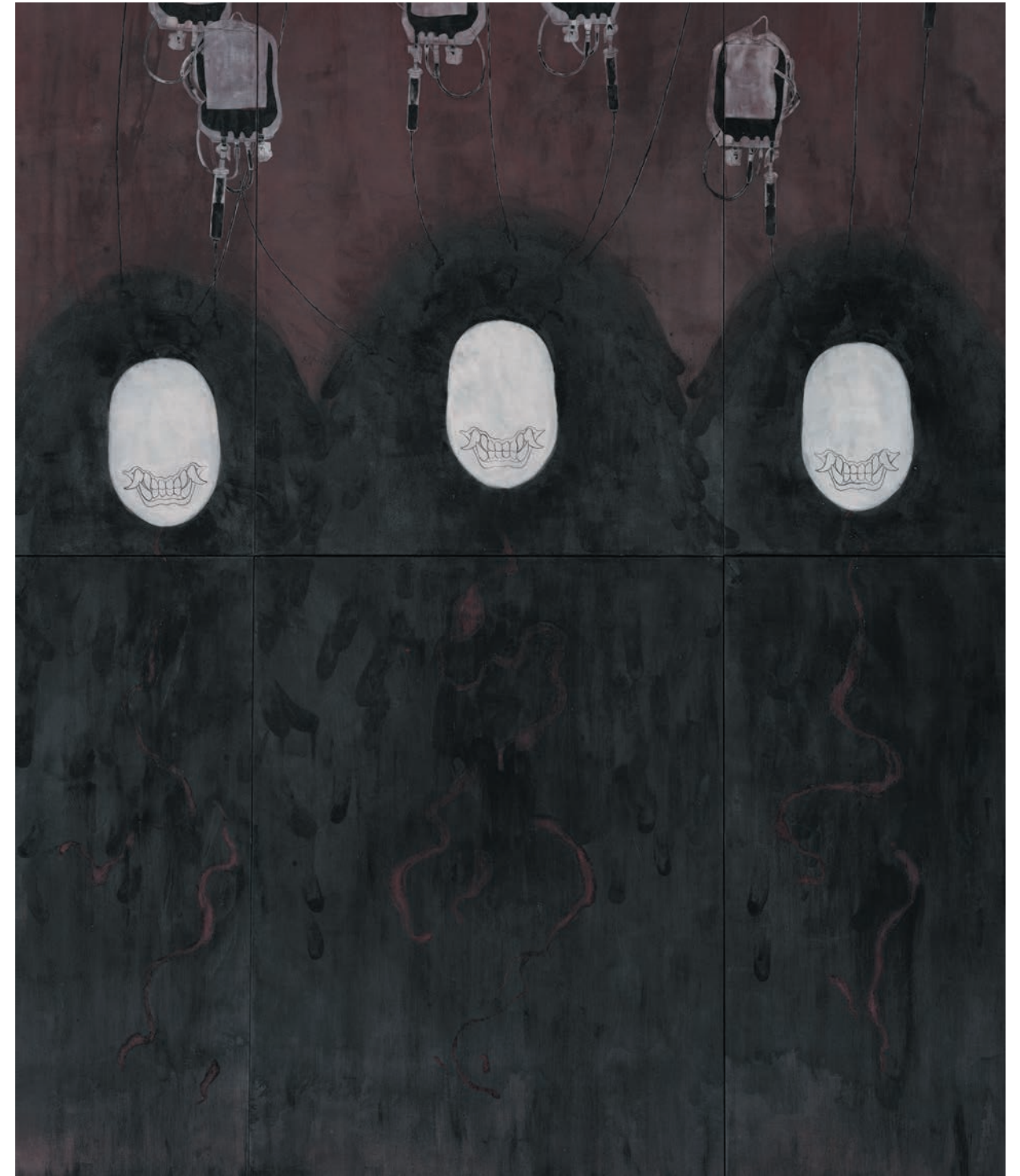
『猜疑心がまだあるのに誰を頼るの?』『いないよ』『死んじゃえ』『頑張れは所詮他人事』『誰も助けてくれないよ』  
『この世で一番美しい色は、血液なんだよ』『だから、血と命を捧げろ』  
“Who do you rely on when you still have doubts?” “No.” “Death.” “Cheer up it is someone else's business after all.”  
“No one will help you.” “The most beautiful color in the world is blood.” “So give your blood and life.”  
岩絵具、墨、水干絵具 / アートクロス  
Mineral pigments, sumi, dyed mud pigments on polyester  
300 × 400 cm / 162 × 227.3 cm

精神的不安に陥る事によってどのように制作で影響が生じるのかを分析、研究しています。絶望は、人を不安に陥れる闇であり、深く心に傷跡を付け痛みを残していく感情でもあり、生きていく中で人間関係や将来への希望喪失・挫折など人が辛い経験をした時に現れる心理現象。実制作においていかにどのような構図やモチーフで表現していくのかを明らかにしようと必死に闘っています。

修了制作では、精神が病んでいる際に■める為、蝕み出てくる心に潜む異物を制作しました。

「私は今どこにいるの？」

自身の彷徨う世界で、己を自責しながら生きる運命は、儚く黒い暗渠な闇しか包まれない。





## 王 晓勇

WANG, Xiaoyong

### 現代神話の構築

「水怪・水鬼」の記号研究

Construction of a Modern Mythology

「水怪」という記号は、まるで社会全体の無意識世界の寄生物のように、いろんな時代にも繰り返してあるきっかけで蘇られ、ある種の集合記憶(collective memory)にもなっている。この神話蘇生の輪廻の中心に立つのは、20世紀40年代 から50年代にわたって、新生の中国に社会パニックを起こした「毛人水怪(もうじんすいかい)」あるいは「毛人水鬼(もうじんすいき)」事件である。

本論は毛人水怪事件を中心として、記号学の視点から水怪という記号の能記 (Signifiant) を考察し; この記号を通じて、社会の構造と歴史の変遷の中に起こる権力の流れに触れ; 現代 社会の構造における神話のよみがえの仕組みを探究することが目的となっている。



石獅子去勢委員会諸事項  
Ablative surgery to the phantom limb of ideology  
ミクストメディア / Mixed media  
300 × 400 cm



## 大橋 来未

OHASHI, Kurumi

### 記憶を絵画で表現することによる浄化

Purification by Expressing Memory in Painting

袋に入った金魚というモチーフには「夏祭り」それに紐づいた楽しい記憶の側面と、「その金魚たちはどこからきてどこへ行ったのか?」、誰もがうすうす気がついているが無かったことにされている「透明な死」という側面がある。記憶の中で都合のいい部分だけを穏やかな主観によって美しいものに变化させているが、見なかったことにした記憶が確かに存在していたことは、袋の中で曖昧に像を変化させる金魚たちの実在によって証明されている。

記憶の改ざん・忘却は必ずしも悪いことではなく心の防衛機能であるとして、忘れた記憶があったこと、内容を思い出せなくてもそれを知覚すること自体が浄化の機能を果たすのではないか。ビニールの中の金魚たちはどこにも行けないが、記憶というプールの中で時々によって姿かたちを変えながら回遊している。



洞融 / A round fish

岩絵具、金箔 / 雲肌麻紙 / Mineral pigments and gold leaf on Japanese paper / 183 × 368 cm



## 篠原 麻里

SHINOHARA, Mari

### 自然の風景をモチーフに絵画を制作すること

Creating Paintings with Natural Landscapes as a Motif

自然の風景の中には、常に新しい発見と感動が潜んでいる。四季によって変化する自然を観察し、岩絵具を用いた表現を模索する。



In the garden

岩絵具、胡粉 / アートクロス / Mineral pigments and gofun on polyester / 182 × 364 cm



## 陳 天逸

CHEN, Tianyi

### 現実と記憶を繋ぐ心象風景のテーマとした作品を風景画での表現

An Imagined Landscape that Represents a Connection Between Reality and Memory

日本に来てから、できる限り行きたい場所を巡り、一人で散歩し、この静かな旅から得た感動を日本画で表現しようと考えた。具象と抽象という2つの対立する境界を突破し、特殊な写意表現で、この穏やかな静寂を見ている人に共感したい。



真夜のお暇 / Nap in the middle of the night

岩絵具、水干絵具 / 高知麻紙

Mineral pigments and dyed mud pigments on Japanese paper

160 × 260 cm



## 平井 聖月

HIRAI, Mizuki

### 『植物』モチーフの魅力

Fascination of "Plant"

植物は逞しく強かに生きている。その姿を古来より人々は畏怖と尊敬の念を込め「美しい」と感じてきた。その美しさは心を癒し、また奮い立たせるものでもある。

私にとっての作品制作とは、そんな植物が持つ生命力や瑞々しさ、強さを作品の中に閉じ込める様に一輪一輪描き出すことである。



可惜夜 / Dawn

岩絵具、水干絵具、色鉛筆 / 綿布 / Mineral pigments, water-dried paint and color pencil on cotton cloth / 182 × 364 cm





## 本城 葵

HONJO, Aoi

### 日本画について

Think About Japanese Painting

ここではないどこかに居場所を探していた。

答えは自分の中にあった。

またここで声がする。 / I have a voice here again  
岩絵具 / 和紙 / Mineral pigments on Japanese paper  
180 × 270 cm





## 丸山 眞葉

MARUYAMA, Mayo

### 個人の可能性

Possibility of Individuality



静寂 / Silence

筆、ボールペン / Pencil, ballpoint pen

242 × 333 cm

美術教育に対する「個性の可能性を広げる」という自分の教育概念を意識し、“美術”と“教育”のあり方を考える活動をしてきた。非常勤講師としての経験をきっかけに、子供たちの個人に存在する可能性を感じた。その可能性を宇宙などの未知の空間をモチーフにし、“可能性の広さ”

を表現する事にした。これを踏まえた上で、修了作品では、肉体・思考・感情のバランスが整った時に訪れる静けさの中にある、行動のみでは得られない「可能性」を表現している。





# 宮崎 篤

MIYAZAKI, Atsushi

## 「力」について

About the “Power”



これまでの人生において、「運」や「巡り合わせ」といった自身の努力だけではどうしようもないものが大きく影響することがあった。その「運」や「巡り合わせ」に、目には見えない「巨大な力」の存在を感じ、それを鑑賞者と共有することを研究テーマとした。

また、「巨大な力」は「自然」に対しても感じる人が多い。

一方で、人は自然から食物や資源などを獲得し繁栄してきたが、他方で、地震や土砂災害のような天災は、多くの人の命を脅かす。自然の、人の力が及ばない部分にも同様に「巨大な力」が作用していると感じたため、「自然」をモチーフとした作品を主に制作しながら、「力」に対してどのような態度、姿勢で臨むべきか、考えている。



Rage / mercy  
岩絵具、水干絵具 / キャンバス  
Mineral pigments and dyed mud pigments on canvas  
300 × 400 cm



## 柳田 佳子

YANAGIDA, Kako

### 流れる時間表現を持つ絵画におけるリアリティについて

Reality in Paintings with Flowing Time Expression

自身の制作の一つのテーマは、「時間が流れるリアリティの表現」である。このテーマは高校生の頃の絵画体験がもとになっている。その表現されたものに共感的なものを感じ、絵画と現実の自分の境目がなくなり同じ時間が流れているような体験は今も覚えているほど大きな衝撃だった。この体験から、自分が感じていたリアリティや実感のある美しさが表現された絵が描きたいと思い描いてきた。

自分たちが生きている毎日にあるものは、流れていく時間と共に変わり動いていくものであり、そこに自分は実感のある美しさを感じる。この作品は院の二年間、日常にあるものをモチーフとし、日本画の画材を使って「層」や「跡」など時間を積み重ねた表現を用いた作品制作の一つの形である。



Wonder Wall

岩絵具、色鉛筆、箔 / 和紙 / Mineral pigments, colored pencils, and leaf on Japanese paper / 180 × 360 cm



# 林天駒

LIN, Tianju

## 詩的な絵画言語

Poetic Painting

私の絵画は詩歌あるいは文学作品の主題を探究している。

この作品はイギリスの詩人シェリーの「西風の賦」からインスピレーションをえて制作したものである。

「西風の賦」には「冬来りなば 春遠からじ」という有名な一っせつがある。

古来、中国の文人は蓮を観賞や雪見のことに深い感情を持っている、蓮の花は純潔で優雅な象徴である。かれたハスの荒れる模様と衰退の感覚は私にとって、命の終わりで、新しい生命の始まりである。画面の余白として雪の景色は虚無な世界を表し、命は、絵の中の蓮のように、虚無な世界に循環していると思う。 溶ける雪と飛び来たエナガは春きかかると言うことを象徴している。

この作品は、冬の侘びしい風景を表現するだけでなく、詩の内面性と自分の精神世界をよく伝えることを目的としている。

この二年間、コロナは社会や生活などに大きな影響をあたえている、この大変な時期には我々人間は詩人と同じような気持ちで、春は必ず来ると信じ、コロナには必ず打ちかって、普段の生活に戻ると信じる。

冬来りなば春遠からじ

If Winter comes, can Spring be far behind?

土絵具、水干絵具、岩絵具 / 白麻紙

Dyed mud pigments and Mineral pigments on Japanese paper

194cm × 261 cm

